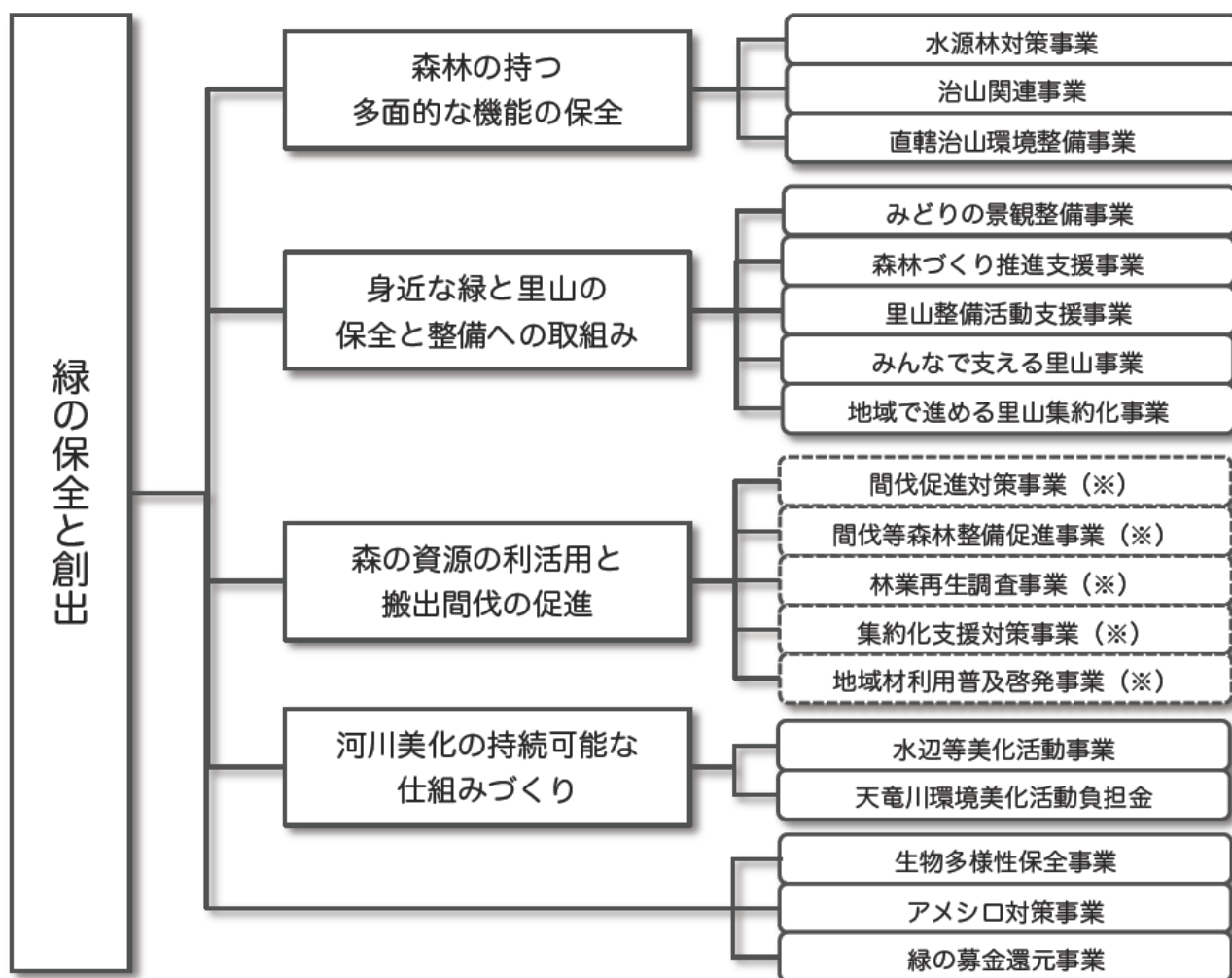


基本施策 2 緑の保全と創出

1 施策の柱と事業の構成

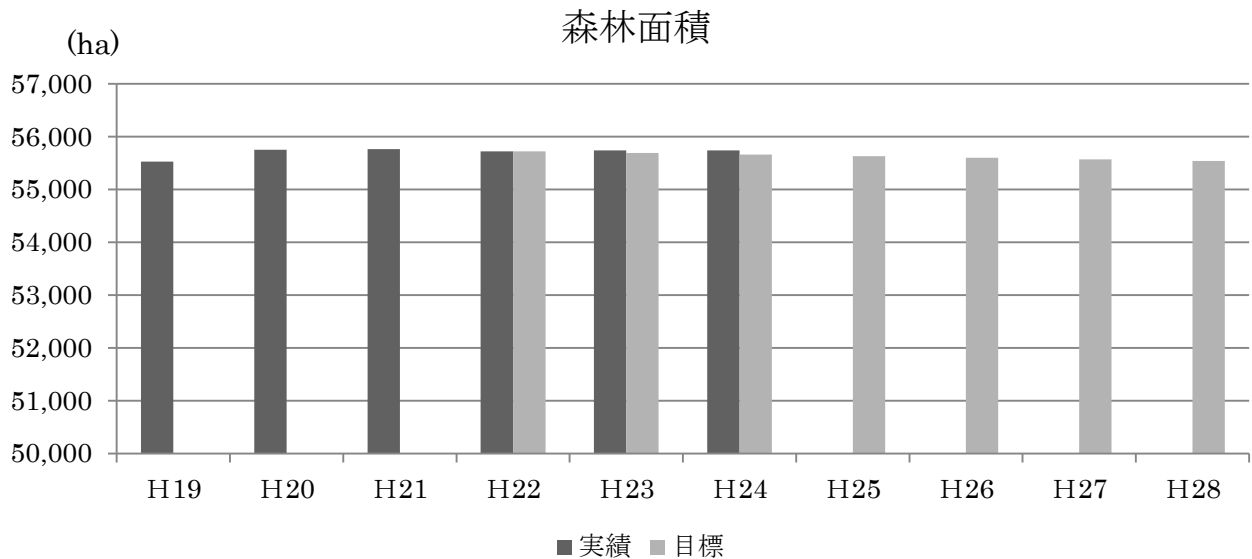


2 施策指標の達成状況

施策指標	単位	平成 22 年度 実績	H24 年度 実績	H28 年度 目標	達成 状況
森林面積	ha	55,724.4	55,740.0	55,540.0	○
森林間伐面積	ha	739.68	423.0	366.0 574.0	—
森林間伐面積のうち搬出間伐面積	ha	28.87	156.5	165.0 52.0	—
搬出間伐の割合	%	3.9	37.0	45.1 9.0	—
松川中流域で発見される水質階級Ⅰの指標生物の割合	%	72.0	66.7	75.0	×
全市一斉水辺等美化活動に参加した世帯の割合	%	76.0	68.0	78.0	×

達成状況 ○：目標達成で、改善傾向 ○：目標達成で、横ばい又は悪化傾向

△：目標未達成だが改善傾向 ×：目標未達成で、横ばいまたは悪化傾向



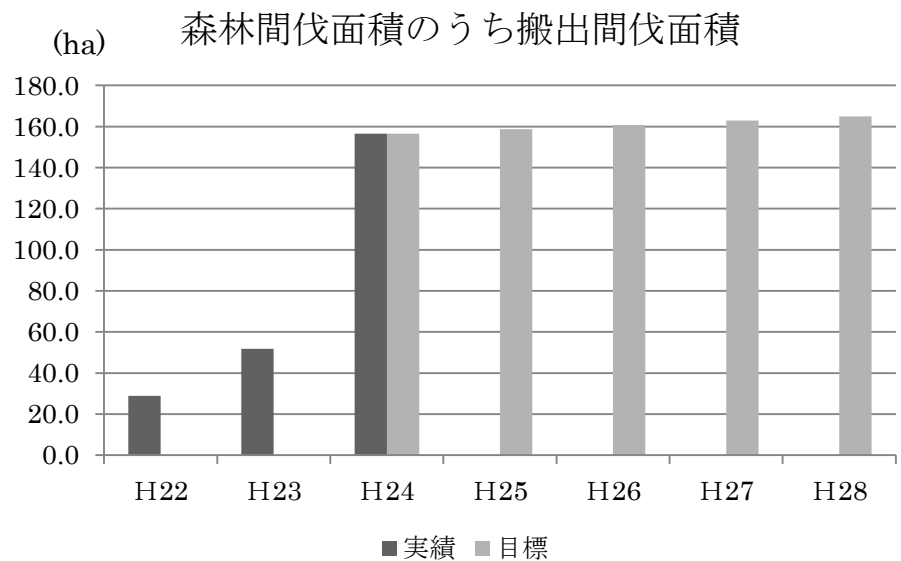
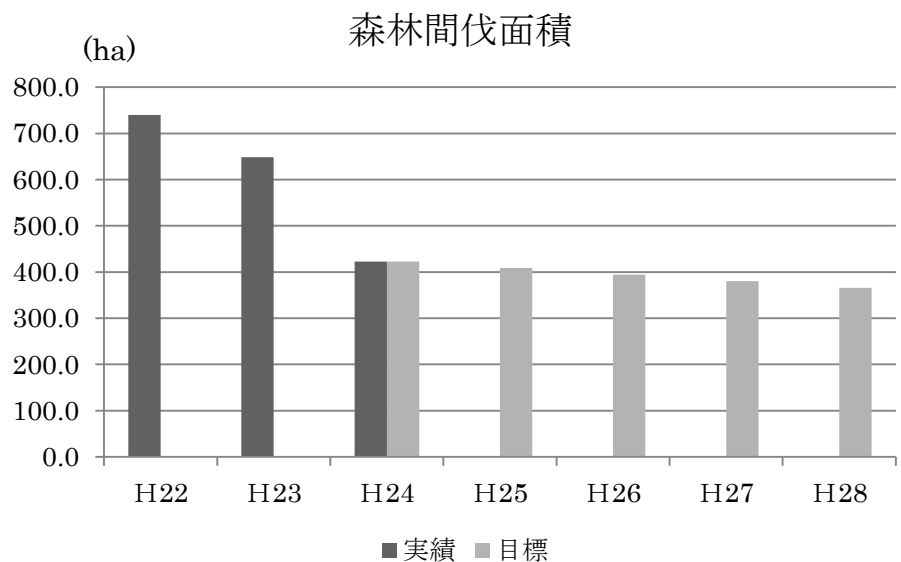
森林面積は、目標を上回り維持されています。
このまま維持を目指していきます。

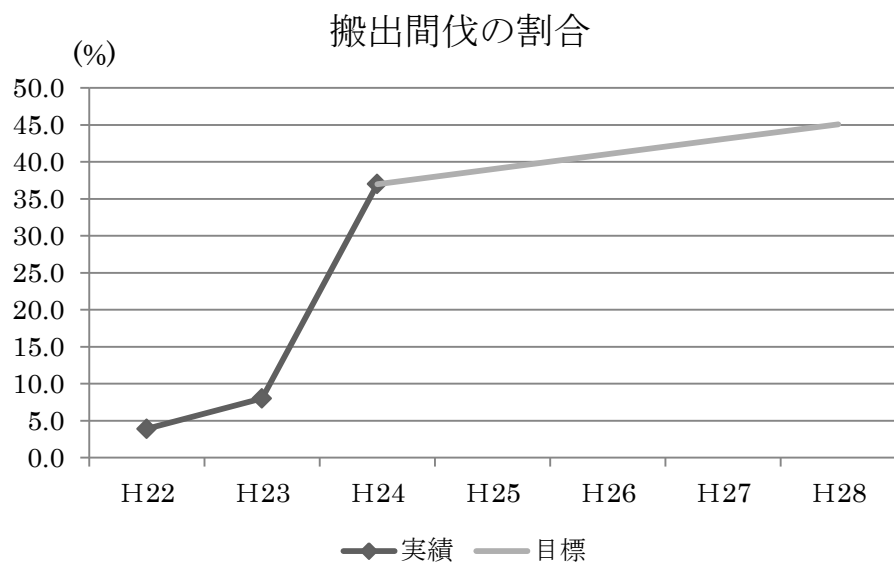
森林間伐に関する指標については、今回は評価しませんでした。

それは、国の制度改正により、補助対象が切り捨て間伐を含まなくなり、搬出間伐中心に移行したためです。

この状況の変化により、森林間伐面積全体は、当初の想定を大きく下回り、搬出間伐面積や搬出間伐の割合は、大きく想定を上回っています。

この状況を踏まえ、目標の再設定を行いました。

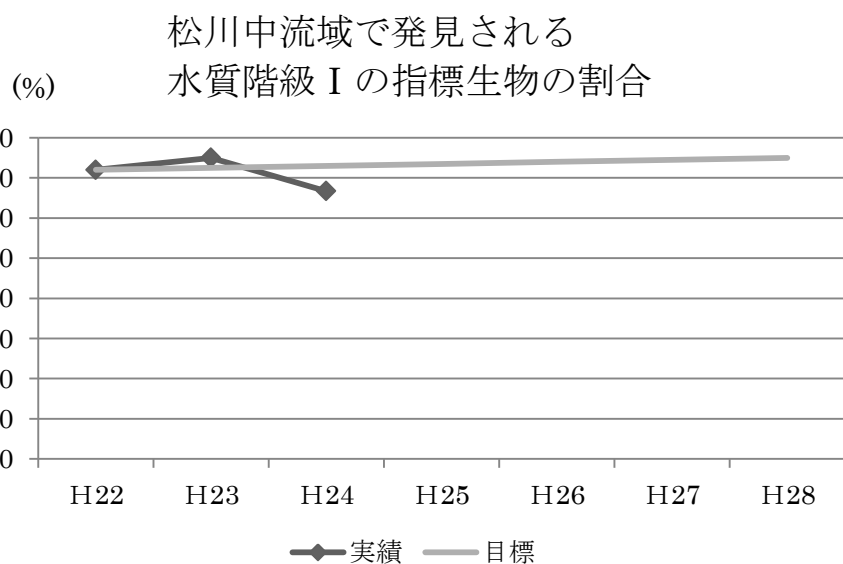




松川中流域で発見される水質階級Ⅰの指標生物の割合は、目標を下回りました。

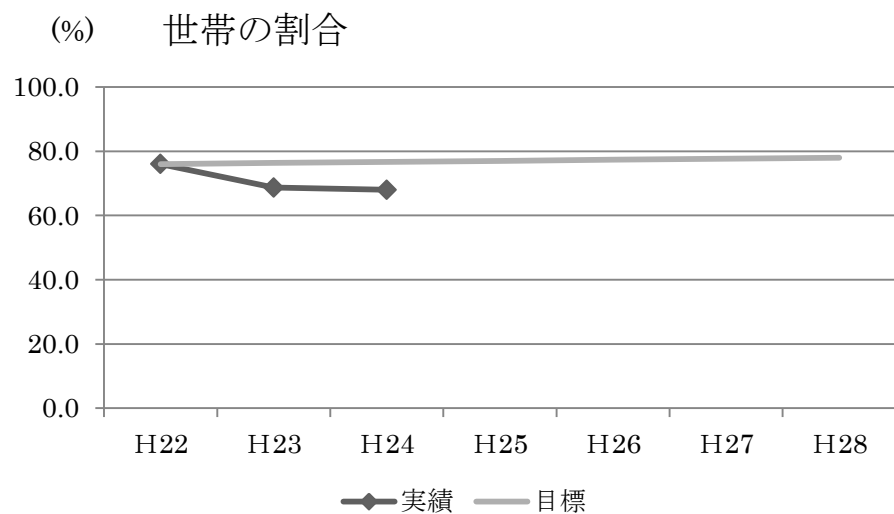
これは、国による指標生物の見直しが行われた影響が大きいと考えられます。

成果指標の再設定が必要かはもう少し様子を見て判断します。



全市一斉水辺等美化活動に参加した世帯の割合

全市一斉水辺等美化活動に参加した世帯の割合は、目標を下回っています。



3 施策の柱の達成状況

施策2-1 森林の持つ多面的な機能の保全

1 将来的な手順の考え方と現状

	将来的な手順の考え方	H24年度 の状況
第1段階	(1) 将来を見据えて森林整備を進めるため、森林の持つ公益的機能の重要性と、森林整備計画を周知していきます。	◎ 実施中
	(2) 森林の手入れに対する支援と治山事業への協力を行います。	◎ 実施中
第2段階	(1) 森林整備と治山事業への市民の関心を高めるため、実際に参加してもらう機会を増やします。	△ 一部実施
	(2) 計画に基づいた森林整備への支援を行います。	◎ 実施中

2 進行を管理する指標

施策指標（再掲）	単位	平成22年度 実績	H24年度 実績	H28年度 目標	達成 状況
森林間伐面積	ha	739.68	423.0	366.0 574.0	—

達成状況 ◎：目標達成で、改善傾向 ○：目標達成で、横ばい又は悪化傾向

△：目標未達成だが改善傾向 ×：目標未達成で、横ばいまたは悪化傾向

3 事業の実施状況

事務 事業名	治山関連事業	直轄治山環境整備事業
担当課	林務課	林務課
全体 概要	森林、道路、人家等を守るため、県単・公共治山事業で採択されなかった小規模な箇所を市単独事業で補います。	飯田市の重要水源で森林資源が豊富な松川入地区について、国が進めている民有林直轄治山事業を円滑に行うため、唯一の進入路である林道松川入線が重要であり、通行量の増大に伴い、危険箇所や崩落箇所等改良の必要がある箇所について、早急に対策を講じるため関連改良工事を実施します。
実績	治山関連工事	林道松川入線改良工事 丸太積工・法面保護工
指標値	延長 L=40m	施工延長 L=100m
決算額	236(千円)	2,287(千円)

事務 事業名	豊川水源林対策事業（上村）	豊川水源林対策事業 （旧 豊川水源林対策造林事業）
担当課	上村自治振興センター	南信濃自治振興センター
全体 概要	財団法人豊川水源基金は、豊川水系を軸とする関係18市町村と愛知県が共同で設立し、豊川上流域における水源涵養林の造成等を円滑に進めるために設立された団体である。 豊川水系における治水と水資源の確保のため、上下流域が連携して水資源の涵養に重要な機能を果たす森林の保全を図るものである。 飯田市としては同財団の助成を受けて、市有林の保育等を行うこととなっている。	財団法人豊川水源基金の助成を受け、間伐を行う。施業は業務委託による
実績	豊川水源基金から一定の助成を受けて市有林の保育施業（間伐）を業務委託により実施した。	1 間伐事業 (1) 財団法人豊川水源基金の助成を受けて市有林の間伐を行う 南信濃木沢地区
指標値	保育間伐 3ha	1(1)間伐実施面積 5ha
決算額	684(千円)	1,389(千円)

施策 2-2 身近な緑や里山の保全と整備への取組み

1 将来的な手順の考え方と現状

	将来的な手順の考え方	H24 年度の状況
第 1 段階	(1) 里山整備のため、所有者の集約化や整備事業を実施します。	◎ 実施中
	(2) 里山の持つ公益的機能を、多くの市民に周知します。	◎ 実施中
第 2 段階	里山の整備を支援するため、所有者のみではなく、多様な主体により取り組める仕組み作りを行います。	未実施

2 進行を管理する指標

里山の面積について 集落に近い森林を一般に里山と呼んでいますが、統計上では里山という区分があるわけではなく、面積は集計できていません。 引き続き里山整備の支援事業を行い、その実施状況から面積を推計、目標の設定を行います。

3 事業の実施状況

事務事業名	みどりの景観整備事業	みんなで支える里山整備事業
担当課	林務課	林務課
全体概要	野生鳥獣の耕作地への被害が増えているため、里山の農地周辺の荒廃森林等の藪払い、不用木の除去をすることで、サル、イノシシ、クマ等による農林産物被害を防止する手立ての一つの方策と同時に良好な森林景観を形成します。	【長野県森林づくり県民税活用事業】 間伐実行 〈みんなで支える里山整備事業〉 今まで整備が進めにくかった集落周辺の里山に於いて、飯田市や飯伊森林組合、NPO 法人等が森林の機能回復を図るために間伐などの森林整備を推進します。 (1ha かつ3人以上)
実績	鳥獣被害防止緩衝帯整備事業 森林と農地の境界周辺の荒廃した里山林における藪払い、除間伐	長野県森林づくり県民税活用事業 間伐施工後、検査で合格した事業地に対して補助金を交付しました。 ・森林組合直接申請
指標値	整備計画面積(ha)A=2.67ha	(1)個所数 17カ所 (2)森林施業面積 218.27ha
決算額	824(千円)	4,687(千円)

事務 事業名	森林づくり推進支援金事業
担当課	林務課
全体 概要	【長野県森林づくり県民税活用事業】 市町村支援 〈森林づくり推進支援金事業〉 地域固有の課題に対応した森林整備の推進や、間伐材の利用促進などを行うための市町村の取り組みに対しての県の支援金。 県では、飯田市独自の取り組み方法や事業内容・事業費などの申請を受け、県主催の県民会議や地域会議に於いて、承認・決定されます。
実績	長野県森林づくり県民税活用事業 1 里山整備事業:集落周辺の里山を整備し居住環境の改善と、景観対策を図りました。 2 間伐材有効利用事業:木製構造物の修繕に地元産の間伐材を利用する事で間伐の意義や間伐材の利用方法を周知しました。 3 竹林整備事業:導入した破碎機の消耗品費、修繕費を 10/10 事業で実施し、自治会・集落等が行う竹藪整理に破碎機を貸し出した場合の支援効果を実証しました。
指標値	1 面積 20.42ha 2 1式 3 1式
決算額	6,082(千円)

施策 2－3 森の資源の利活用と搬出間伐の促進

1 将来的な手順の考え方と現状

	将来的な手順の考え方	H24 年度の状況
第 1 段階	現在、間伐は、その多くの伐採木が山林内に置かれる「切り捨て間伐」から、持ち出される「搬出間伐」に切り替わりつつあります。 搬出された木材を利用するための仕組みを検討します。	○ 次年度 実施予定
第 2 段階	間伐材の利用のための啓発活動や、有効な利用方法の研究と利用促進への支援に取り組めます。	○ 次年度 実施予定

2 進行を管理する指標

施策指標（再掲）	単位	平成 22 年度 実績	H24 年度 実績	H28 年度 目標	達成 状況
森林間伐面積のうち搬出間伐面積	ha	28.87	156.5	165.0 52.0	—
搬出間伐の割合	%	3.9	37.0	45.1 9.0	—

達成状況 ◎：目標達成で、改善傾向 ○：目標達成で、横ばい又は悪化傾向
△：目標未達成だが改善傾向 ×：目標未達成で、横ばいまたは悪化傾向

3 事業の実施状況

事務 事業名	間伐促進対策事業	間伐等森林整備促進対策事業
担当課	林務課	林務課
全体 概要	間伐事業量の拡大と、コストがかかる搬出間伐を積極的に推進するため、森林組合等の森林整備事業者が行った事業地に対し、間伐経費の補助制度を拡充します。 間伐事業については、国県の補助金以外に標準単価の 15%を市単独で補助していますが、搬出間伐や保安林間伐の実施については、さらに5%上乗せして標準単価の 20%とし、平成 18 年度から実施しています。	森林整備事業者が木材(間伐材)搬出や林内作業を効率的に行うため、新たに高性能林業機械を導入することの支援を行い、間伐材の搬出に伴うコスト軽減と生産性の向上を図る。 また搬出された木材を地域で製材し地域で消費するため、共同製材所に対し積極的に関与し、製材コストを削減することで安定的な製品供給体制を維持する。
実績	県の検査で合格した森林整備事業の事業地に対し、補助金(県標準単価×実施面積×15%以内)を交付しました。 但し、搬出間伐は 20%以内で補助金を交付します。	事業主体:飯伊森林組合(事業主体直接申請分) 導入機種:スイングヤーダ(プロセッサ付) 1台 事業費 :22,122 千円(補助金 国 1/2 以内) :フォワーダー 1台 事業費:14,826 千円 (補助金 国 1/2 以内) :スイングヤーダ 1台 事業費:18,375 千円 (補助金 国 1/2 以内) :選木機改修事業 一式 事業費 6,250 千円 補助対象事業費 5,952 千円 補助金額 3,571.2 千円(市 60%)
指標値	切捨間伐面積A= 25.10ha 搬出間伐面積A=156.53ha 合計面積A=181.63ha 搬出間伐材積V=7,844.7m³	高性能林業機械導入台数 3 台 選木機改修 一式
決算額	11,737(千円)	3,571(千円)

事務 事業名	地域材利用普及啓発事業	集約化支援対策事業
担当課	林務課	林務課
全体 概要	・地域材(間伐材)の利用を促進させるため、民間主導による商品開発などの取り組みに支援を行うなど、需要拡大の意識啓発活動を行います。 ・木材産業関係者との連携による地域材流通販売と生産体制について、マーケティングを実施します。 ・隣接県に大型合板工場が平成23年4月稼動し、地域材の流出など動向を見守るとともに対策の必要があります。 ・南信州共同製材施設建設によって、製材加工コストを削減し、販路の拡大が必要です。	【施業集約化促進対策】 集約化計画作成主体 市内民有林において、30ha 以上のまとまりをもって、集約化を実施するため、森林所有者の相続関係調査を図り、集落単位の説明会を開催し、森林所有者から集約化及び施業の同意を取付け、搬出間伐事業を計画的に実施しました。 (国の補助制度の変更に伴い、施業集約化樹立主体でなければ、事業実施できなくなるため)
実績	製材加工のコスト削減のための素材生産のコスト分析と間伐材需要拡大戦略づくり 飯田市産木材に関する情報発信、森づくり作業体験、木工体験、森林教室、林産物販売、パネル展示、地域材に関する相談や講演会を開催しました。	集約化対策事業 ・搬出間伐事業を推進するため、市内の民有林を集約化するための、森林簿データの変更・更新を行いました。
指標値	参加人数 408 人	①森林経営計画の作成促進 団地数 2 団地 面 積 372.79ha ②施業集約化の促進 団地数 4 団地 面 積 80.34ha
決算額	35(千円)	0(千円)

施策 2－4 河川美化の持続可能な仕組みづくり

1 将来的な手順の考え方と現状

	将来的な手順の考え方	H24 年度の状況
第 1 段階	河川の美化及び維持管理に必要な情報を整理し、各地域と共有します。 なぜ、どのような地域の活動が必要なのか、どういう課題を解決しないといけないのか共有します。	△ 一部実施
第 2 段階	地域と共有された課題について、改善に向けた方向性を探る話し合いが始まり、協力体制が構築されます。	未実施

2 進行を管理する指標

施策指標（再掲）	単位	平成 22 年度 実績	H24 年度 実績	H28 年度 目標	達成 状況
全市一斉水辺等美化活動に参加した世帯の割合	%	76.0	68.0	78.0	×

達成状況 ◎：目標達成で、改善傾向 ○：目標達成で、横ばい又は悪化傾向
△：目標未達成だが改善傾向 ×：目標未達成で、横ばいまたは悪化傾向

3 事業の実施状況

事務 事業名	水辺等美化活動事業(河川清掃事業)	天竜川環境美化活動負担金
担当課	環境課	建設管理課
全体 概要	全市民にて河川清掃を実施 身近な環境を自分たちの手で改善する活動の一つとして、全市一斉に河川清掃を実施するように呼びかけます。 実施日・実施内容は地区により異なる場合もあるので、やり方について検討が必要です。	市民などのボランティアにより、河川内の樹木の整理、流木やごみの片付け、また、樹木の下枝の整理などを実施し、天竜川に人々が近づけ、憩えるような場所を取り戻すことを目的とした事業。 夏季に河川清掃・アレチウリ駆除を流域7地区(座光寺、上郷、松尾、下久堅、龍江、竜丘、川路)で地区住民により実施。 冬季に河川内樹木の整理等を実施。 冬季作業については使用機器(チェーンソー、運搬用車両、作業用重機等)が多数必要となるため、活動実施地区に対し機器借り上げ料、燃料費等を助成します。
実績	7月第一日曜日を全市一斉河川清掃実施日として計画しました。草・土砂については、飯田建設事務所の管理する松川河川敷へ仮置きし、桐林クリーンセンターで処分し、土砂は業者による処分としました。	1 天竜川流域および全市より募集したボランティアによる、天竜川河川敷の樹木伐採および処分、ゴミの片付け等の実施しました。 2 実施地区に対する機器借り上げ料・燃料費等、補助に充てる事業費負担金を、(財)飯田市天竜川環境整備公社へ支出しました。
指標値	1 清掃された河川数 175 河川 2 動員人数 約 20,000 人 3 車の借上台数 89 台 4 障害保険料 179,000 円 5 草処理 36.91t 6 土砂処理約 16 m³	1 活動実施地区数7地区 2 負担金支出額 570 千円
決算額	1,616(千円)	570(千円)

施策 2 その他事業の実施状況

事務 事業名	アメシロ対策事業	緑の募金還元事業
担当課	環境課	林務課
全体 概要	自治会等が、市有地、所有者不明地などを含めた土地にアメシロが発生し、共同で防除を行う場合で、希望により車両及び動力噴霧機の貸し出し並びに薬の払い出しを行います。	緑の募金還元金を利用して市内の公共施設の環境緑化を推進します。
実績	・アメリカシロヒトリ防除薬剤の貸与 - 防除薬剤(DDVP)の生産中止と卸店在庫がなくなり、23年度からスミチオンに変更しました。 ・防除車の貸出 3台(軽1台・トラック2台)防除車を管理しています。	市内の公共施設に苗木の配布をしました。ミツバツツジ他
指標値	1 薬剤払い出し等の申請数 30件 2 防除車貸し出し件数 45件	本数 1,907本
決算額	660(千円)	1,032(千円)

事務 事業名	生物多様性保全事業	
担当課	環境課	
全体 概要	絶滅危惧に指定される希少野生植物の保全 1 環境省カテゴリーで絶滅危惧種I類以上に指定されているなど、絶滅が危惧されている植物の自生地をシカの食害等から守るため、シカよけの防護柵などを設置するための資材の購入 2 「ヤシャイノデ保全の会」などを中心にボランティア活動で防護柵を設置します。 3 目標として約20年前の状況(部分的に下層植生はヤシャイノデ等が覆う状況)まで復活させます。 4 次期環境基本計画策定に向けて希少野生植物の調査を行います。 5 伊那谷自然友の会などの専門分野の方を講師として環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図ります。	
実績	1 伊那谷自然友の会などの専門分野の方を講師として環境調査員(環境チェッカー)の育成・レベルアップを図りました。 2 外来生物等、生物多様性に関する情報提供を行いました。 3 生物多様性自治体ネットワークを活用した情報収集をしました。	
指標値	1 2回 2 2回 3 随時	
決算額	19(千円)	